

鶴保内閣府特命担当大臣の 歯学部訪問について

鶴保庸介内閣府特命担当大臣（沖縄及び北方対策、クールジャパン戦略、知的財産戦略、科学技術政策、宇宙政策）が平成29年6月11日の新潟大学訪問の際、歯科医学教育のニーズに対応できる教育設備の視察を目的に、歯学部の視察が行われました。前田歯学部長の歯学部概要説明の後、デンタルトレーナーシステムの体験（吉羽永子講師）、飲み込む機能の正常と異常（誤嚥）と地場産業との食品共同開発の講演（井上誠教授）、臨

床基礎技能実習室の視察および咀嚼能力測定の実演の視察（小野（高）教授）、ファントム実習室および電子ポートフォリオの視察（藤井教授、小田助教）が行われました。この様子は、内閣府のホームページ（http://www.cao.go.jp/minister/1608_y_tsuruho/photo/2017-035.html）ならびに文教ニュースでも紹介されました。



平成29年度 科学研究費助成事業の内定について

この度、平成29年度科学研究費助成事業の内定が行われました。歯学系および医歯学総合病院（歯科系）の新規採択率はそれぞれ37.7%、41.7%と全学の目標値である30%を大きく超えました。また基盤研究B以上の新規採択課題および新規＋継続採択課題の割合も歯学系では6.6%、17.9%と目標値の5%、10%を超えました。今年度は基盤研究（A）1件、挑戦的研究（開拓1件、萌芽2件）と新規採択がありました。基盤的経費の削減

が続く中、外部資金の獲得の重要性がますます高まっており、また平成30年度公募分から、科学研究費のシステム改革が本格スタートするため、常日頃の準備が必要となります。さらに、科学研究費助成事業の配分細目別トップ10ランキングでは、歯学系10細目中、トップテン入りしている細目は8に留まっており、ランキング外の2細目（機能系基礎歯科学、矯正・小児系歯学）のランキング入りが喫緊の課題といえます。

香港大学歯学部との 部局間交流協定の締結について

歯学部ではグローバル人材育成の目標の下、国際ネットワークの構築を進め、教員の学術交流、学生の交換留学を進めています。香港・香港大学歯学部（<http://facdent.hku.hk/>）から部局間交流協定締結の強い要望を受け、締結の可否について検討を進めてきました。この度、前田歯学部長、魚島副学部長（国際交流担当）が平成29年5月29日に香港大学歯学部を訪問し、Thomas

Flemmig学部長とともに部局間交流協定書に署名を行い、協定締結式を終えました。香港大学歯学部は世界歯学部ランキング（クアクアレリ・シモンズ [QS] 社）第1位にランクされ、またPBLチュートリアル教育でも有名な歯学部です。この部局間交流協定には学生交流に関する事項も含んでおり、教員のみならず学生レベルでの活発な交流が期待されます。



花田晃治名誉教授の叙勲について

新潟大学名誉教授 花田晃治 先生（元 新潟大学学長補佐、元 新潟大学歯学部長、元 新潟大学歯学部附属病院長）は平成29年春の叙勲で、瑞宝中綬章の栄に浴されました。先生のご功績として、矯正歯科学分野において、日本人の歯・顎の不正咬合に関して形態学的、組織学的、機能学的研究を通して、矯正治療の診断・治療に広く寄与し、特に日本人の顎変形症の「外科的矯正治療」に対する診断法・治療法を確立したこと、また多数の大学院生を育成し、門下生から3名の教授ほか多くの教育者と矯正歯科専門臨床医を輩出していることがあげられます。長年にわたって多くの優れた研究成果をあげ、教育にも並々ならぬ情熱を注いで後進の育成に努め、さらに管理運営面においても尽力し、大学の発展に寄与した功績は誠に顕著であることが評価され、この度の叙勲の栄となりました。花田先生のインタビュー記事は毎日新聞新潟版に掲載されました。(https://

mainichi.jp/articles/20170429/ddl/k15/040/150000c)。平成29年4月29日付発令。



歯学教育モデル・コア・カリキュラムおよび 歯科医師国家試験出題基準の改訂について

文部科学省は歯学教育モデル・コア・カリキュラム（平成28年度改訂）を、厚生労働省は平成30年歯科医師国家試験出題基準を公表しました。歯学教育モデル・コア・カリキュラム、歯科医師国家試験出題基準はそれぞれ6年、4年毎に改訂が行われていますが、今回がはじめての同時改訂となりました。そのため、縦のつながり（垂直的協働）、すなわち、モデル・コア・カリキュラム、歯科医師国家試験出題基準、臨床研修の到達目標の整合性が図られました。またともに、超高齢社会への対応が大きな改訂の柱となっています。

歯学教育モデル・コア・カリキュラムでは、診

療参加型臨床実習のさらなる充実に加え、横のつながり（水平的協働）として、医科との連携が図られるとともに、「歯科医師として求められる基本的な資質・能力」の実質化、臨床実習開始までの基礎模型実習を含めた技能教育に関する学修目標が新設されました。

また歯科医師国家試験出題基準の改訂では、出題項目の大括り化、包括化が進められるとともに、将来を見据え、社会情勢の変化に合わせて、高齢化等による疾病構造の変化に伴う歯科診療の変化に関する内容、地域包括ケアシステムの推進や多職種連携等に関する内容、口腔機能の維持向

上や摂食機能障害への歯科診療に関する内容、医療安全やショック時の対応、職業倫理等に関する内容の充実が図られました。

これら二つの改訂に伴い、歯学部では各分野に対して、教育内容の見直しを依頼しました。なお、これらの改訂版は、それぞれ、http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/_icsFiles/afieldfile/2017/07/07/1325989_29.pdf、<http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi2/0000163627.html>から、ダウンロードできます。

[mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/_icsFiles/afieldfile/2017/07/07/1325989_29.pdf](http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/_icsFiles/afieldfile/2017/07/07/1325989_29.pdf)、<http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi2/0000163627.html>から、ダウンロードできます。

新潟高等学校特別講義の開催について

新潟県立新潟高等学校は、「歯学に関する専門知識を得、医療に関する視野を広める。最先端の研究や技術の息吹に触れ、学習意欲を高める」ことを目的として、「新潟大学歯学部見学」を実施しています。今回、平成29年8月3日に、同校理数科メディカルコースの高校2年生51名ならびに教諭2名の訪問がありました。宮崎秀夫教授の挨拶の後、微生物感染症学分野の寺尾豊教授による「口の健康と微生物学：観て考えて」、摂食嚥下リハビリテーション学分野の井上誠教授による

「摂食嚥下障害とその治療」の2つの模擬講義が開講されました。また、新潟高等学校出身で新潟大学歯学部歯学科を卒業し、現在、臨床研修医として診療に従事している3名の若手歯科医師から、なぜ歯学部に進学したか、大学生活や将来の夢などについて話がありました。高校生たちは、講義や高校OBとの懇談を通して、自分の進路や適性について深く考え、将来、医療職を目指す気持ちを新たにしました。



平成29年度 オープンキャンパスの開催について

8月9、10日の両日、新潟大学オープンキャンパスが開催されました。当日、台風5号の影響が

残る中、県内外から250名を超えるの参加者がありました。小野（和）副学部長による全体説明、

◆
◆
瀬尾入試委員長による入試説明、摂食嚥下リハビリテーション学分野の井上教授による模擬講義、



卒業生による学部紹介、施設等見学が行われました。



歯学部納涼会の開催について

恒例の歯学部納涼会が7月19日（水）にホテル日航新潟で開催されました。この会は数年前までは教授会納涼会として開催されていたのですが、准講会、助教会の先生方、さらには大学院学生にも参加を呼びかけ、本年は総勢106名の参加

者となりました。教員、大学院生の親睦を深めるため席順は抽選とし、短い時間ながら職種を超えた会話が進み、有意義なひとときを過ごすことができました。

